

# 後援会 会報

2016.11  
里山学院後援会

## 「里山の未来図」

後援会 会長 森下 眞治

里山学院の主務である必要とされる子ども達に、保護者代わりとして、子どもたちに支援を行い、立派な社会人になるべく心身ともに育て上げ、社会へ送り出すという役目は変わらないと思います。その中で子ども達ひとりひとりの心が如何に豊かに育っていきけるように関わっていく事が課題になってくると考えられます。

今までも、子どもの立場からの施策がなされてきましたが、心の育成は目に見えないだけの大変です。古きよき時代の地域との関わりもだんだんと見られなくなってきている今日。今だからこそ里山の子ども、地域との子どもとのつながりを深めるべく、自治会、敬老会、子ども会等の集まりが連携し、子どもたちがつながれる機会を提供していくことが、子どもたちのよりよい未来へ繋がっていくと考えます。

## 「温故知新」

後援会 幹事 村主 堯春

ここ数年の里山学院の施設の拡大には目を見張るものがあります。「鈴鹿里山学院」の開設、「乳児院」の新設等々六十数年の歴史の中で着実に充実してきているのは地域の方々も知るところでしょう。そんな中に創立当時の心がかかされているのでしょうか？

確かに創立当時と比べて社会環境は大きく変化していますが人の心はそんなに変わらないと思います。困った時には原点へ戻ることが大切でしょう。もう一度皆で「里山学院」創立時の精神をふりかえってみよう。

## 「社会福祉法人 里山学院のこれから」

社会福祉法人里山学院 統括施設長 鍵山 雅夫

後援会は、法人として大規模な施設整備を取組むに当り、資金集め・施設理解を得る為に発足をしました。お陰さまで当初の予定以上の施設整備が実施でき、知事・大臣・地域や関係者の多くの方々から関心を寄せられる施設になりました。これからは、いただいたご支援に対しお返しをする番になりました。我々が児童福祉の地域支援活動の拠点として果たすべく、児家センの創設・周辺市町との関係強化・職員研修に励んでまいります。

## 乳児院



乳児院も開所して3年目を向かえ、多くのお子さんをお預かりして、家庭へ帰し、里親さん宅へもお願いをしてきました。職員も経験を踏んできて余裕ができ、その分更にできる事を模索する毎日です。今年は新たな取り組みとして、鳥羽水族館に2班に分けて特急で行ってきました。皆様のご支援による後押しで、色々な活動をさせてもらっています。

乳児院 施設長 鍵山雅夫

## ～後援会より～

学院の運営財源は、国や県からの措置費、寄付金、施設資金などで賄っていますが、子どもたちの教育活動や建物・設備品の維持管理などの財源確保に毎年苦慮しているのが現状です。学院近隣の方々やボランティアの方々の有志により「里山学院後援会」が平成21年3月に発足いたしました。子どもたちに対する物心両面からの支援と学院のさらなる向上を目指し、努力していただいております。社会福祉法人 里山学院では、子どもたちに物心両面での援助をしてくださる方を募集しております。

### 【里山学院後援会ご加入方法】

会費は、年額 1口 個人2,000円、企業・団体5,000円  
郵便振替口座にお振込いただきますようお願い致します。  
《口座番号 00890-1-206505 口座名義 里山学院後援会》

### 【寄付金振込先】郵便振替口座

《口座番号 00810-4-174289 口座名義 社会福祉法人 里山学院》

いつも後援会の活動にご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。今後ともかわらぬご支援、ご鞭撻の程、宜しく申し上げます。

## 里山学院

〒510-0307  
三重県津市河芸町影重1162  
TEL (059) 245-0116  
FAX (059) 245-6020  
E-mail: kawageyogo@satoyamagakuinn.or.jp

## 鈴鹿里山学院

〒513-0056  
三重県鈴鹿市上箕田1丁目6-2  
TEL (059) 381-6021  
FAX (059) 381-6020  
E-mail: suzukayougo@satoyamagakuinn.or.jp

## 乳児院

〒510-0307  
三重県津市河芸町影重1162  
TEL (059) 253-3780  
E-mail: nadeshikobaby@etude.ocn.ne.jp

# 里山学院

# 鈴鹿里山学院

## 「里山の未来図」

里山学院 施設長 奥 昭徳

社会福祉法人里山学院の未来について、私的には大きな未来があるものと推察しています。長きに渡り三重県の児童養護施設を牽引してきた実績は大きな功績と誇りがあります。現在児童養護施設二箇所に加え乳児院が出来たことで、乳児から児童まで一貫した施設養護が整い、加えて将来必要とされる里親支援専門相談員を配置し、里親への相談・支援を行っているのも特徴である。今後の施設は、地域小規模化が進む中で、いかに「地域住民との協働・交流」が必要とされるかが焦点と推察される。加えて児童養護施設退所児童等への支援、相談事業として「児童家庭支援センター」の設置とアフターケア事業を行うことが里山学院の使命と思っています。

## 「児童養護施設のこれから」

鈴鹿里山学院 施設長 榎本英典

鈴鹿里山が開設されて5年を経過した。施設を取り巻く環境は大きく変化している昨今、地域との関係は、後援会の皆様の支援もあって、着実に図られてきている。一方、本年には1947年以来となる児童福祉法の理念が69年ぶりに改正された。これからの児童養護はその趣旨に沿って展開されることになる。益々地域との関係は重要となるので皆様のご支援をお願いします。



食材についての話から自然と会話が増え、食への興味関心が高まるとともに、職員と子ども、子どもと子どもの良好な関係性が高まっているように感じます。

また得意不得意、女性でも料理が苦手な人、逆に男性で料理が好きな人、男性だから女性だからという考えではなく男性でも女性でも好きなことを好きと言い、やりたいことをやろうとする時にそこに男女の区別なくやってもいいという気持ちをもてるようになってきています。

里山学院では1年を通じてお花見やキャンプ、お月見やクリスマス会と季節に応じた行事をたくさん行っています。この時期ではハロウィンパーティーや里山祭があります。里山祭の準備をしつつ、ハロウィンの衣装を各ユニットで子ども達と作っています。

行事がたくさんあるこの季節では子ども達はドキドキワクワクしながらその日に向けて楽しみをふくらませて過ごしています。

保育士 福島将司

鈴鹿里山学院では春夏秋冬の季節の名前から取ったヤマブキ、モクレン、キキョウ、コスモスという4つのユニットがあり、各ユニットにはリビング、キッチン、バスルーム、トイレ、洗濯室、子どもの居室があります。

土日はユニット食を行い、子ども達に作る楽しみ、食べる楽しみを伝えています。子ども達も積極的に調理に参加し、頑張っています。

行事では子どもたちに季節を感じてもらうために夏には七夕祭、秋にはハロウィンパーティー、冬にクリスマス会など、季節ごとで行事を行っています。行事には子どもたちも積極的に参加し、招待した地域の方々と一緒に楽しく過ごしています。

またその他にも施設では敬老会や秋祭りなど地域の方々との交流を深める行事も行っています。

児童指導員 大池智貴